

2026 年度水辺の自然再生共同シンポジウム開催要項・次第

激変した水辺の原風景―追いつめられたタナゴ類等在来生物の復元と保全

アメリカザリガニ退治による水生生物の復元―捕獲技術開発による低密度管理の長期継続

期 日 2026 年 11 月 7 日（土） 10：30～17：00
会 場 東京環境工科専門学校（東京都墨田区江東橋）
主 催 水辺の自然再生共同シンポジウム実行委員会（企画責任団体：NPO 法人シナイモツゴ郷の会、共催団体：旧品井沼周辺ため池群里山未来協議会、全国ブラックバス防除市民ネットワーク）
後 援 大崎市教育委員会、JA 新みやぎ、TOYO TIRE グループ環境保護基金（予定）

次 第

- 進行 NPO シナイモツゴ郷の会 坂本啓
挨拶・趣旨説明 NPO シナイモツゴ郷の会理事長 高橋清孝 10:30
- 第一部 変わりゆく水辺の原風景 昔と今 10:35～11:50
- 1) タナゴ類の絶滅現象とその原因
三重県総合博物館 北村淳一 25 分
- 2) 秋産卵タナゴ類ゼニタナゴとイタセンパラの生態・保全の現状と課題 25 分
宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 藤本泰文
- 3) 氷見市におけるイタセンパラ保全の取り組み―市民連携の推進と成果 25 分
氷見市教育委員会 西尾正輝
- 第二部 水辺の自然再生 取り組み事例（ポスターセッション） 展示 10:30～15：00
- ショートスピーチ： 各講師が登壇、各 1～2 分内容紹介 11:50～12：10
- ポスター発表：各講師がポスター前で説明し質疑応答 13:00～14：00
- 1) メインテーマ関連課題の発表
- ① 秋産卵タナゴ類の産卵行動
シナイモツゴ郷の会 秦 康之
- ② 東京理科大学野田キャンパス公園池で発見されたゼニタナゴ
東京理科大学 渡辺世良、水研機構・水生生物保全協会 斉藤憲治、
東京理科大学 古山祐貴、地球・人間環境フォーラム 萩原富司、
東京理科大学 木俣博史、生態工房 佐藤方博、東京理科大学 倉持幸司
- ③ 旧品井沼周辺ため池群における水生植物の再導入試験と復元可能性
宮城県南郷高校 早坂史郎

- ④ 水田地域におけるアメリカザリガニ被害の予防・処方策
愛知県農業総合試験場 廣野貴司
- ⑤ 小型アメリカザリガニ増加対策-防除と有効活用
シナイモツゴ郷の会 高橋清孝・菊地雄一・相模女子大学 黒川優子・
東京農工大 錦織彩乃・南郷高校 早坂史郎・マルヒ食品 KK 今野 輝
- ⑥ 農業用ため池をめぐる利用と文化 ―地域社会とのかかわりと多面的機能の再検討―
東京農工大学連合農学研究科 錦織 彩乃
- ⑦ 埼玉県の魚-ムサシトミヨのミトコンドリア DNA (Cytochrome-b, D-loop) からみたトゲウオ
科トミヨ属の系統樹作成
東北大学農学部 池田和隆・近畿大学 小田智慶
埼玉県立川越高校卒 武井煌太・師岡大輝・師岡勇輝
- ⑧ 二枚貝保全の現状について
東北大学 生命科学研究所 馬場雄司
- ⑨ 国内外来種アズマヒキガエルの島嶼における生態的影響
筑波大学 澤田聖人・馬籠優輔
- ⑩ 水辺の自然再生シンポジウム要旨集の J-STAGE への登載の取り組み
― 水辺の自然再生活動の成果を世界へ ―
シナイモツゴ郷の会 君島裕介
- ⑪ ブラックバス問題の現状と今後の取り組み
全国ブラックバス防除市民ネットワーク 半沢裕子

2) 自然再生ツールなど実物展示

10:30～15:00

アメリカザリガニ連続捕獲装置、小型ザリガニ専用トラップ、人工水草等自然再生ツール
シナイモツゴ郷の会 菊地雄一・浅野功

昼食

12:10～13:00

第三部 生物多様性保全の取り組み 現状と今後の方向

1) アメリカザリガニ防除の取り組み

14:00～14:50

- ①アメリカザリガニ防除の手引きを刊行 25 分
農林水産省農村水産局鳥獣対策・農村環境課農村環境対策室 吉見友弘
- ②アメリカザリガニ全成長段階の大量捕獲技術の開発 25 分
シナイモツゴ郷の会 高橋清孝

2) 生態系保全・復元の取り組み紹介

14:50～15:40

- ① 東京東大和市二つ池公園におけるアメリカザリガニ防除と水生植物・水生昆虫の復元 25 分
生態工房 佐藤方博・片岡友美
- ② 里山ため池における外来種防除によるゼニタナゴなど外来生物の復元と保全 25 分
シナイモツゴ郷の会 長谷川政智・高橋清孝

休憩

15:40～15:45

総合討論

15:45～16:30

座長 シナイモツゴ郷の会 高橋清孝